



コロナ禍で中止になったイベントも多い中、いれたち交流会はオンラインで進められた。



いれたちの活動拠点「立川市子ども未来センター」(立川市錦町)は、子育て・教育・市民活動を支える施設。

地域で支え合い、楽しみながら

子育てができるまちを目指す



お話を伺いました

子育て・いれかわりたちかわり実行委員会代表
夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議会長
チャイルドラインたちかわ代表
山中 ゆう子さん

子育て・
いれかわりたちかわり
実行委員会

「子育て・いれかわりたちかわり実行委員会」(通称「いれたち」)は、立川市とパートナーシップを結んでいる子育てボランティア団体です。立川市の子ども総合計画「夢育て・たちかわ子ども21プラン」に関わった有志によって2004(平成16)年に立ち上がり、立川市子ども未来センターを拠点に活動しています。

「いれかわりたちかわり」とはユニークなネーミングですが、立ち上げに関わり、現在は代表を務める山中ゆう子さんによれば、「地域のいろんな人とつながって、入れ代わりながら子育て支援を続けていこうということで、この変わった名前になりました。目指すところは、『立川で子育てをしてよかったな』と思ってもらえるまちにすること。それを市民だけでなく、行政や企業にも手伝ってもらいながらやっていきたいとスタートしました」とのこと。

山中さん自身、俗にいう「ワンオペ育児」を経験し、子どもが熱を出したときなど、近くに頼れる人がいない孤独や不安を感じていたと言います。今もきつと同じ思いをしているお母さんたちがいるに違いない。ママたちがリフレッシュできる場所をつくりたいとの思いから、最初は赤ちゃんと一緒に体を動かして遊ぶ体操イベントを企画。それが現在は、赤ちゃんをおぶったまま踊る「レッツフラ」という人気のイベントに発展しています。

このように、これまでいれたちに参加したママたちが「やってみよう」ということを講座やイベントとして実現してきました。近年では、赤ちゃんや子どもがいる家庭に特化した「防災講座」や「救急法講座」も行い、これらにはご夫婦での参加も増えてきたそうです。(※いずれもコロナ禍で中止・延期あり)

背中の赤ちゃんを重しにして踊るフラダンスの会で、ママたちもリフレッシュ!



オンラインで開催された赤ちゃん・子ども向けコンサートのチラシ。

子育て当事者の「こうなればいいな」を現実に。



子育て団体同士のつながりを深めるため、年に一度行われる「いれたち交流会」の様子。

たった一人の声に
耳を傾けることが大切

いれたちでは、自分たちの活動のほか、地域にある30以上の子育て支援団体、サークル、個人の情報をまとめたサイト「いれたち・ねっと」や、団体同士の交流を育てる活動「わ!わ!わ!わ!」を運営しています。メンバーは、ほとんどが現役の子育て世代のお母さんたち。現在の実行委員は13名ですが、これまでに50名以上のメンバーが入り代わり立ち代わり活動に参加してきました。産休・育休中だけの短期間の応募も受け付けているのが特徴です。

「会社と家の往復だけだった人が、いれたちでの活動をきっかけに、地域に知り合いができるという良さがあると思います。『いれたちに入っているだけで良かった』ことは、まちを歩いていて、この中には! って手を振れる友達ができたこと」と聞いたときは、すごくうれしかったですね」と山中さん。

実は昨年度より、初めてお父さんメンバーが加わったそうです。男性目線の新しい意見が入ることで、いれたちがさらに活気づいているのだとか。コロナ禍の今は、「子連れで安心して行ける場所がない」という声が高まっている、オンラインによる「いれたちファミリーコンサート」など、新しい試みも始まっています。

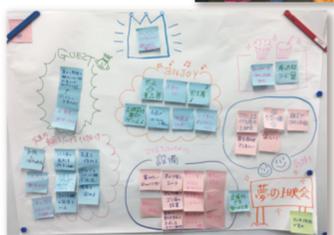
取材の最後に、「個々が抱える悩みや困りごとは様々ですが、たった一人がポロッと口にしたことに焦点を当て、その人を元気づけたり、多くの人に知ってもらったりする活動をしてきました。これからも『雑談の中に真実がある』という思いを持ち続けていきます」と話してくれました。

赤ちゃんが泣くのはお互いさま! 子育て中でも楽しめるイベントを自分たちの手で+

シネマのたまてばこ



上映会が成功し、みんな記念撮影。



実行委員会のミーティングでは、意見交換が活発に行われる。

「シネマのたまてばこ」は、いれたちが主催する映画上映会。「乳幼児を連れてお母さん、お父さんにも大きなスクリーンで心おきなく映画を楽しんでもらいたい」と、立川市とシネマシティが協力し、年に一度開催しています*。

当事者のママたちを中心に半年間限定的実行委員会を立ち上げ、上映作品の検討から、チラシの作成、広報活動に至るまで、すべてママたちの手で進めています。上映する映画

は子ども向けのもではなく、親が観たいと思うもの。シネマシティと実行委員会のメンバーとで、意見交換しながら候補作品を挙げ、最終的には投票で決めているそう。

この活動は、「赤ちゃん連れでも自分でなにかやれるんだ!」と達成感を感じたり、プロジェクトを進めるなかでメンバー同士の信頼関係を築いたり、ママたちの学びや成長の機会となっているそうです。

*コロナ禍のため令和2・3年度は中止